

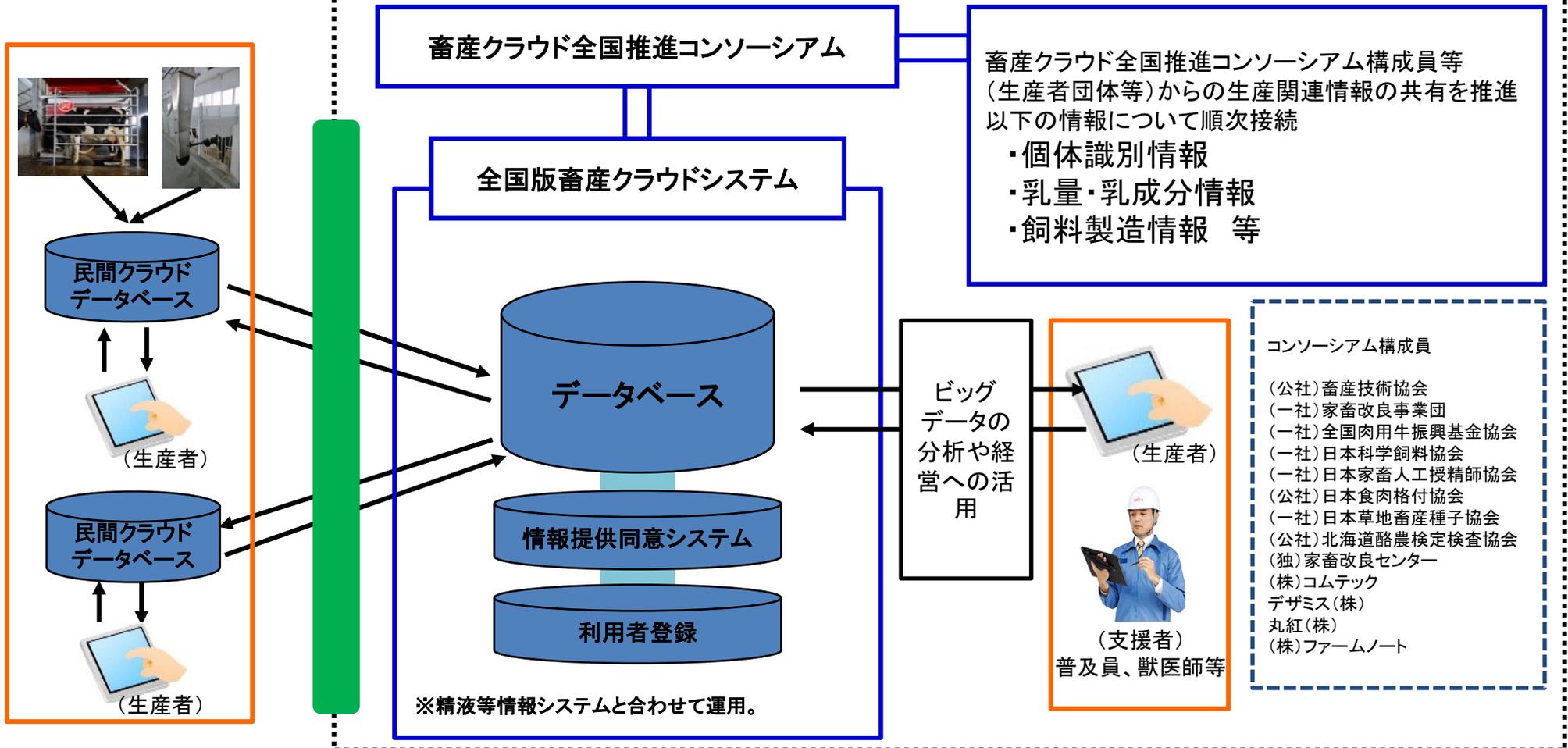
# 畜産クラウドの現状

令和7年1月  
農林水産省畜産振興課

# 畜産クラウドの概要

○ 全国的にデータを収集する「全国版畜産クラウド」を2018年から運用開始。今後機能の拡充、参加農家・団体の拡充を図る方針。

## ＜全国データベース構築＞



# 情報の集約による農家のメリット

- 情報の集約により、牛の移動履歴や乳量・乳成分といった様々な情報の一元的利用が可能。
- 複数農家の情報を集約・分析することで、各農家は類似飼養規模別・地域別といった単位との比較が可能となり、自らの立ち位置を把握することで改善すべき点の分析も可能。

- 【課題】現在、情報を収集・活用するには
- (1) 各情報を所有する機器や団体等から個別に収集。
  - (2) 紙媒体での情報もあり、分析等の活用が難しい。  
(PCで閲覧可能でも複数アプリが必要 等)
  - (3) データの連動や比較による経営分析等が難しい。

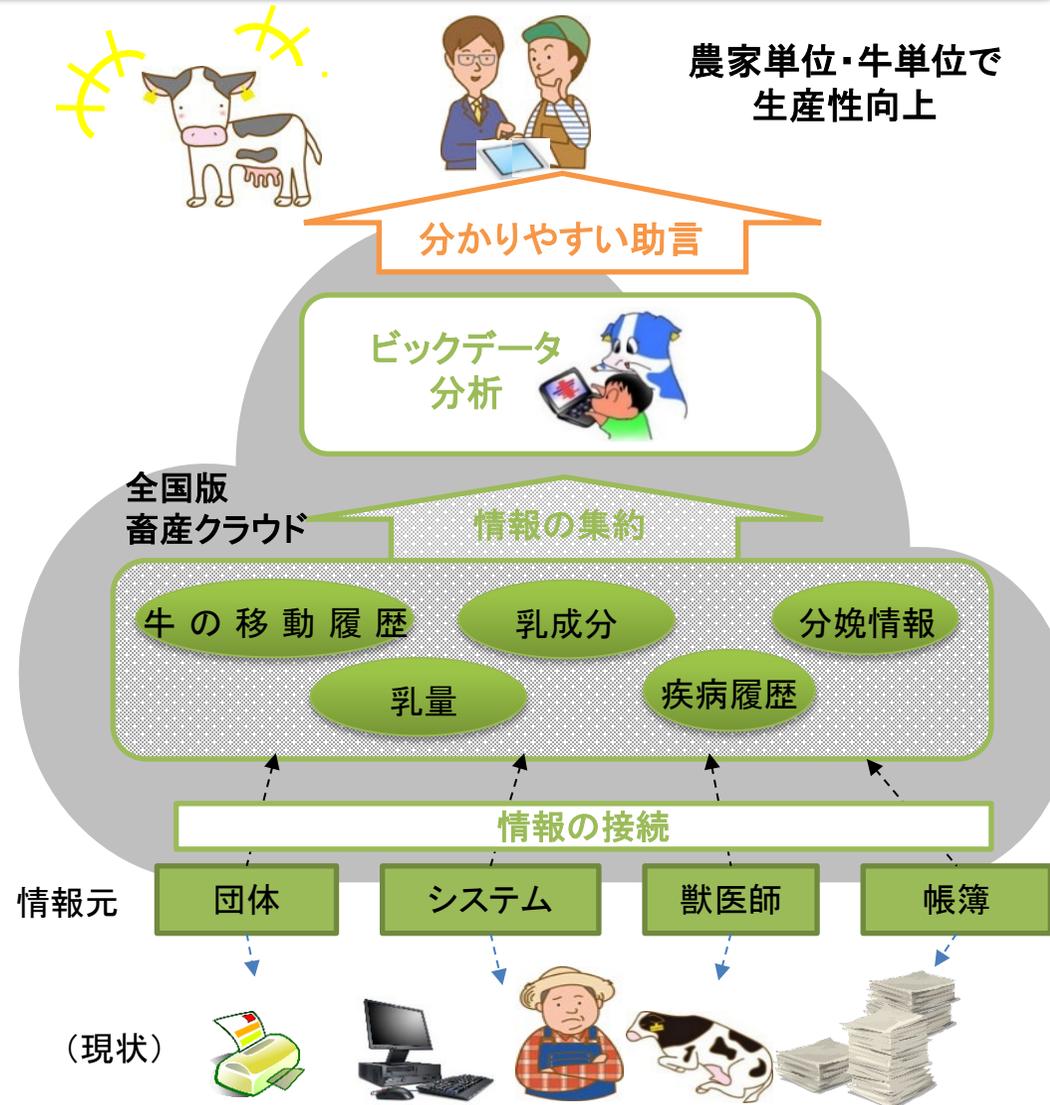
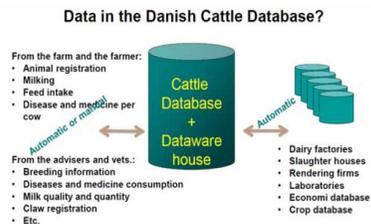
## 情報の集約により

- (1) 情報が一元化し、各情報の一括入手が可能に。
  - (2) データとしての入手が可能となり、情報の活用が容易に。
  - (3) 様々なデータの比較検討により、経営分析等が容易に。
- ⇒ **農家単位・牛単位で生産性の向上へ寄与。**

### 【事例】

デンマークではデータ集約・活用の効果もあり、生産性が向上

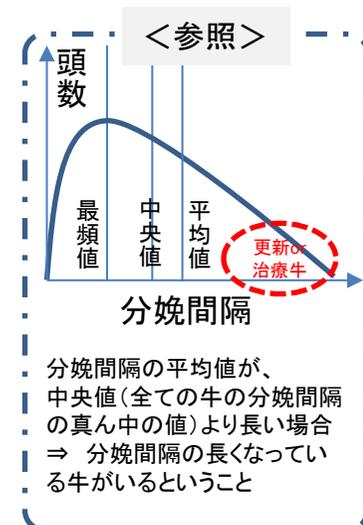
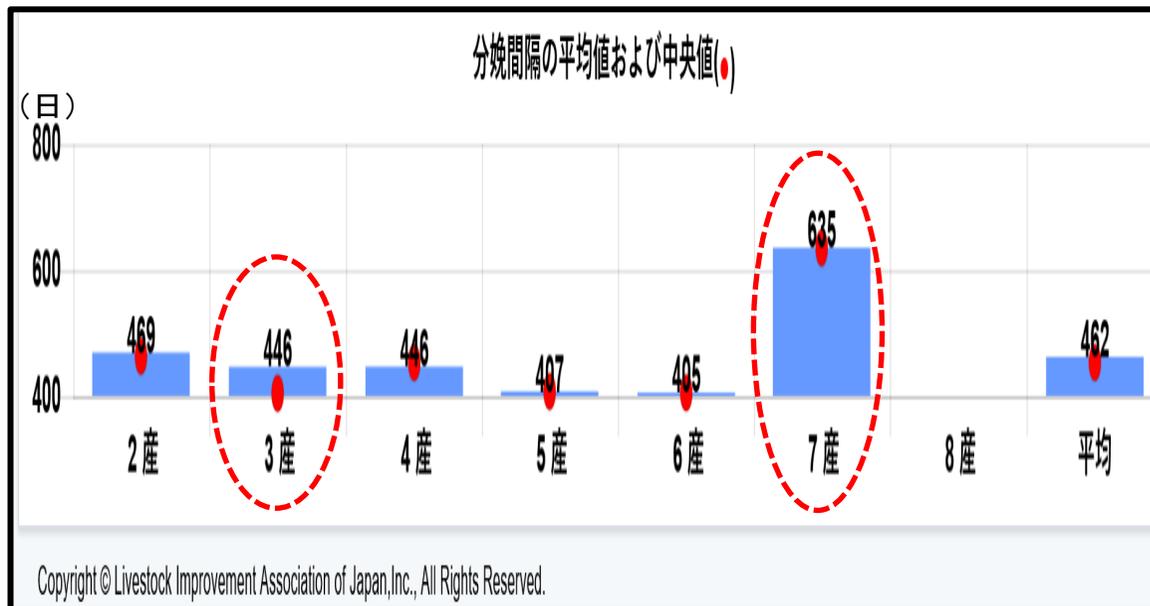
例) 乳牛1頭当たり乳量：  
'12年度 9,010kg → 21年度 10,096kg  
(同時期の我が国は8,154kg→8,871kg)



○ 個体識別情報と連携したことで経営内の産次ごとの分娩間隔を閲覧可能。飼養改善や治療を考える牛が見える化。

例えば、この農家さんでは・・・

- \* 3産の牛群に繁殖の悪い牛がいて、中央値(●)と平均値(棒グラフ)が乖離。
- \* 7産の牛は相当、繁殖が悪い
- \* 2産の牛は分娩間隔がやや長い



治療など飼養改善を  
考える牛が見える化！

- \* 発情1回逃すとエサ代は21日で約2万円(生産費から推計)。
- \* 7産の635日を平均の462日に短縮するとエサ代▲約8.5万円。

注)子牛が死産で牛トレサ制度の届出がない場合も

<上記を閲覧するには>

- ① まずは畜産クラウドに登録。
- ② データー一覧を選択すると関係する農家が一覧表示される
- ③ 確認したい農家の「閲覧」を選択
- ④ 農家で飼養される牛が一覧表示される。例えばここで、「農家グラフ」を選択すると上記のグラフが表示。



- ① 個人登録及び団体登録が可能
  - ・ 個人の場合、免許証等で登録
  - ・ 団体の場合、団体が本人確認



情報の利用 農家団体コード 農家団体名

同意状況一覧

03	37	家畜個体識別システム研究開発事業中央協議会	確認中
08	13	テスト農家2	2018-10-09

操作ログ

注:農家が了承していない場合、勝手に閲覧はできません。

牛一覧 産歴一覧 農家情報 農家グラフ

ホル 他乳 黒毛 他肉 ♂ ♀ 経産 未産 個体識別番号検索 1234...

歳ヶ月	個体識別番号	性別	品種	生年月日	分娩年月日	分娩間隔	産次	産子性別	母牛	母牛生年月日
0 2	15750-	-4 ♀	ホル	2019/03/19					15527-	-5 2017/03/10
0 2	15750-	-8 ♀	ホル	2019/03/26					14445-	-7 2014/08/22

# ○ 畜産生産力・生産体制強化対策事業

【令和7年度予算額 774 (778) 百万円】

## <対策のポイント>

肉用牛・乳用牛・豚・鶏の改良や牛個体識別番号と関連する生産情報等を集約・活用する体制整備を推進するとともに、肉用牛の肥育期間の短縮・出荷時期の早期化や和牛の信頼確保のための遺伝子型の検査の支援により、畜産物の生産力及び生産体制の強化を図ります。

## <事業目標> [平成30年度→令和12年度まで]

- 生乳生産量：732万t→732万t
- 牛肉生産量：35万t→36万t
- 豚肉生産量：91万t→92万t
- 鶏肉生産量：169万t→172万t
- 鶏卵生産量：248万t→252万t

## <事業の内容>

### 1. 家畜能力等向上強化推進

遺伝子解析技術等を活用した新たな評価手法や始原生殖細胞（PGCs）保存技術等により、生涯生産性の向上、遺伝的多様性を確保した家畜の系統・品種の活用促進、肉質・繁殖能力の改良の加速化等を推進する取組を支援します。

### 2. 畜産情報活用強化対策

畜産関係団体やITベンダー等が連携し、牛の個体識別番号と当該牛に関連する生産情報等を併せて集約し、活用する体制を整備する取組等を支援します。

### 3. 肉用牛短期肥育・出荷月齢の早期化推進

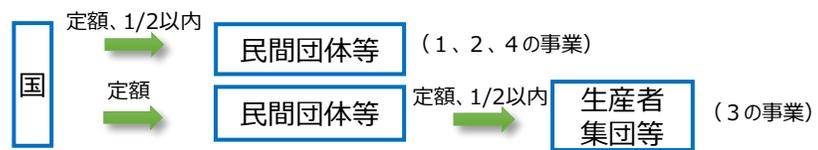
肉用牛生産における生産コストの削減や環境負荷の低減に資する、肉用牛の肥育期間の短縮・出荷時期の早期化を推進するため、

- ① 意欲ある生産者団体による先行地調査、実証等の取組
- ② 早期出荷牛肉の認知度向上、理解醸成を図るための品質評価等の取組を支援します。

### 4. 和牛の信頼確保対策

我が国の貴重な知的財産である和牛の血統に関する信頼を確保するため、遺伝子型の検査によるモニタリング調査を推進する取組を支援します。

## <事業の流れ>



## <事業イメージ>

### 1. 家畜能力等の向上強化

・遺伝子解析技術による評価手法

特定の能力と関連のある塩基配列をどれだけ多く含むか比較

高能力牛と推定

・生涯生産性の向上

濃厚飼料の削減につながる乳量変動の小さい牛へ改良

### 2. 畜産情報活用強化対策

畜産クラウド  
個体識別情報をキーに畜産関連データを集約

牛個体識別台帳システム

畜産のビッグデータ等の活用による畜産経営改善支援

畜産関係団体 ITベンダー その他支援関係者

### 3. 肉用牛短期肥育・出荷月齢の早期化推進

① 早期出荷に向けた生産推進

早期出荷に向けた意欲ある生産者団体による実証等を支援

② 早期出荷牛肉の流通促進

成分検査、生物・物理検査、官能検査による品質評価及び経営・飼養管理モデル分析を実施

### 4. 和子牛の遺伝子型の検査

登記上の父は人気種雄牛

しかし、実の父は登記と異なる牛

・国産和牛の信頼低下  
・購入者の利益の遺失

モニタリング調査を通じ、血統矛盾事案の発生を抑制

【お問い合わせ先】 (1, 3①, 4の事業) 畜産局畜産振興課 (03-6744-2587)  
 (2の事業) 畜産振興課 (03-3501-3777)  
 (3②の事業) 食肉鶏卵課 (03-3502-5989)